遮光が夏期のハウス内気温および米ナスの収量・品質に及ぼす影響

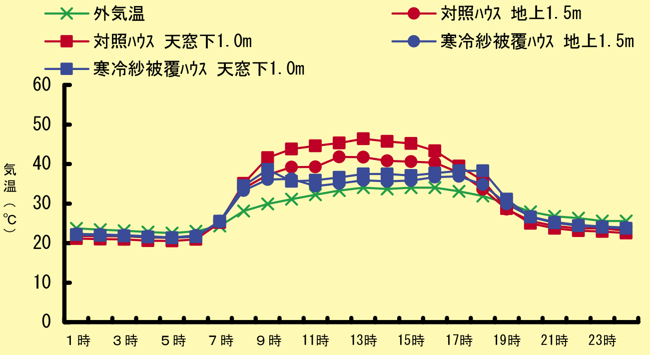

図1　白色寒冷紗被覆ﾊｳｽでの気温の推移（2004年7月28日）

注1）遮光資材には白色寒冷紗（タイベック遮光率50%）を使用した。
2）遮光は、快晴時の午前10時～午後3時の間で行った。
3）7月28日は、調査期間中1日の最高気温が最も高くなった日である。

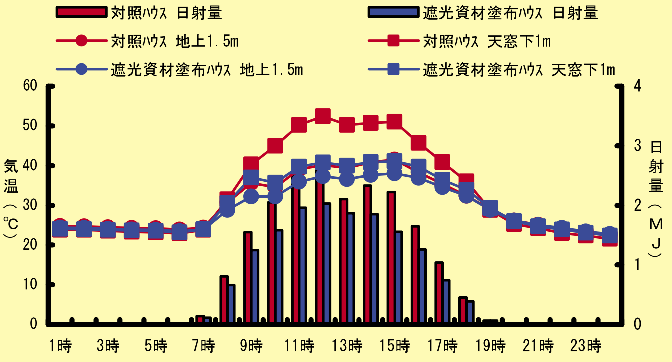

図2　遮光資材を塗布したﾊｳｽでの気温の推移（2005年8月21日）

注1）遮光資材にはレディソル（遮光率35%）を使用した。
2）8月21日は、調査期間中1日の最高気温が最も高くなった日である。

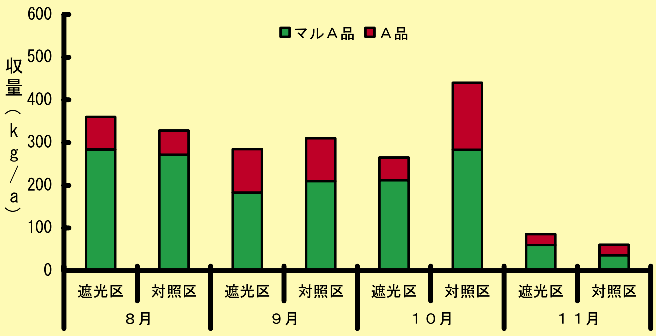

図3　白色寒冷紗による遮光が米ナスの収量・品質に及ぼす影響（2004年）

注1）耕種概要　定植日4月19日、栽植密度：うね幅180cm、株間70cm、主枝本数3本。
2）遮光期間中（7月16日～9月30日）に開花した花を追跡調査した。調査株は5株。
3）品質の判定は、園芸連の出荷規格に基づいて行った。

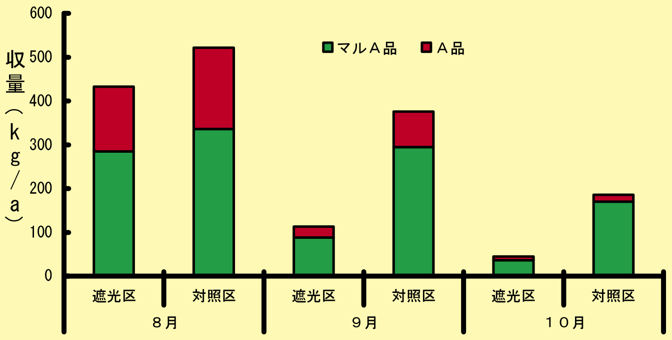

図4　塗布式遮光資材が米ナスの収量・品質に及ぼす影響（2005年）

注1）耕種概要　定植日5月6日、栽植密度：うね幅180cm、株間70cm、主枝本数3本。
2）遮光期間中（7月20日～9月30日）に開花した花を追跡調査した。調査株は5株。
3）品質の判定は、園芸連の出荷規格に基づいて行った。

夏秋期の雨除け米ナス栽培では梅雨明け後の高温によって、収量・品質が低下します。そこで高温を抑制するため換気方法と遮光について検討しました。

その結果、白色寒冷紗（商品名：タイベック　遮光率：50%）を快晴時の午前10時から午後3時まで被覆する方法は、対照ハウス（サイド開放）に比べて地上1.5mで6℃、熱気の停滞するアーチ部分では9℃気温が低くなりました（図1）。塗布式遮光資材（商品名：レディソル　遮光率：35%）で常時遮光を行う方法では、地上1.5mで4℃、アーチ部分では6℃低くなりました（図2）。しかし、いずれの方法とも落花や開花数の減少による収量減や着色不良による品質低下が認められました（図3、4）。

以上により遮光・遮熱資材によりハウス内の気温を抑制することはできますが、米ナスのような大果形品種では、多くの光量が必要であり、今回の方法では、生育に十分な光量が得られず光合成産物が不足したことが収量・品質に影響したと考えられます。

（山間試験室　齊藤格久　0887-72-0058）